

宮柁二記念館だより

2019.3.31

第 50 号

発行 宮柁二記念館

TEL・FAX

025-794-3800



平成30年11月 短歌大会表彰式

平成から次代へ…

今年の干支は「亥」…、十二支では十二番目となり亥は「闇(がい)」で草木の生命力が種の中に閉じ込められた状態を表しているとされています。

覚えやすくするために動物の「猪」が割り当てられ、日本では「猪」の字は「イノシシ」を、中国では「ブタ」を意味するとされています。

また、「亥」ともされる動物の猪の肉は、万病さえも防ぐ予防する力があるとされており、亥年には「無病息災」の意味もあるとされています。

「猪」の字の四文字熟語というと「猪突猛進」くらいしか浮かんできませんが「一竜一猪(いちりゅういつちよ)(いちりょういつちよ)」もあるようです。努力して学ぶ人と怠けて学ばない人との間には大きな賢愚の差ができるということ。竜は賢く成功した者にたとえ、猪は豚のことで無知な愚かな人にたとえてのことです。

少々湿っぽい話になってしまいましたが、皆さんにとつての「平成」はいかがだったでしょうか？

地下鉄サリン事件、リーマンショックにはじまった不況、市町村合併、政権交代、東日本大震災…あまり明るい話題はなかったように思われます。迎える新しい「元号」は？

新しい元号になっても宮柁二記念館をより皆様から親しんでいただくことができるよう努めてまいります。

かわらぬご支援をお願い申しあげごあいさつとさせていただきます。よろしくお願い申しあげます。

第二十四回宮柁二記念館全国短歌大会

一、二、二四九首の応募

【一般の部】

最優秀賞

姿見に映りし顔は考と妣ははそうだったのかここにわたのか

愛知県 岡崎市

林 建生

選者賞（池田はるみ選）

日が昇りびちびいびちびい啼く雲雀高くて見えずびちびいびちびい

和歌山県 和歌山市

新沼野 乙

選者賞（大松達知選）

気のぬけたビールのような気怠るさに写真のあなたはいつでも背広

岐阜県 岐阜市

川出香世子

【ジュニア部門（小学生の部）】

選者賞（池田はるみ選）

夏休み海のすなはまあつすぎて歩くすがたはえりまきとかけ

新潟県 魚沼市立湯之谷小

星 なのは

選者賞（大松達知選）

林でねいきなりちようが通ってねそのままだこかに行っちゃうんだよ

新潟県 新潟大学附属長岡小

小林美実香

【ジュニア部門（中学生の部）】

最優秀賞

目をとじて気持ち静めて深呼吸コートに入ればオレレジョコビッチ

神奈川県 中央大学附属横浜中

三浦 響

選者賞（池田はるみ選）

憧れのシチュエーションを読み返すしおりの数だけ主人公になる

福岡県 福岡市立松崎中

吉田 陽菜

選者賞（大松達知選）

気がつけば母のつむじを見おろしたとどかぬ物を取ってと言われ

東京都 東京学芸大学附属小金井中

木村淳之介

【ジュニア部門（高校生）】

最優秀賞

シャーペンのノックとともに声がするお前が行けよお前が行けよ

神奈川県 神奈川県立柏陽高

佐藤 亮士

選者賞（池田はるみ選）

黒と白二人の私が住んでいて十七歳はまだグレーです

新潟県 東京学館新潟高

今井 結理

選者賞（大松達知選）

コンビニにいつもいる人おにぎりをあたたためること覚えてくれた

新潟県 長岡工業高等専門学校

土田 晴登

第24回 短歌大会 応募状況

区分	応募作品数	応募者数
一般の部	910首	386人
ジュニアの部	11,339首	5,850人
（小学生）	2,520首	1,302人
（中学生）	4,105首	2,136人
（高校生）	4,714首	2,412人
総数	12,249首	6,236人

第二十四回全国短歌大会は、平成三十年十一月十七日（土）、選者に池田はるみ先生（未来）、大松達知先生（コスモス短歌会）をお迎えし、堀之内公民館を会場に三百人を越える皆様の参加をいただき盛大に開催することができました。応募総数は一、二、二四九首で、一般の部、ジュニアの部共に多くの応募が寄せられました。

平成三十一年度も第二十五回となる短歌大会を予定しています。五月一日から応募受付を開始し、一般の部は七月三十一日、ジュニアの部は九月六日が締め切りの予定です。なお、表彰式については、今回同様に開催日を土曜日として計画しています。また、今年には新潟県内において第三十四回国民文化祭が開催されることに伴い、国民文化祭の応援事業として開催する予定です。

短歌テレビ番組の放送をよく見かけるようになり、短歌が身近なものになっていくように感じます。さらに短歌を親しむ人が増えることを願います。短歌大会では、各学校の力添えによりジュニアの部では多数の応募をいただいています。

このような状況のなか、宮柁二記念館短歌大会も、さらに大きな大会にしていきたいと考えています。大勢の皆様参加をお待ちしています。

【選者のことば】

この縁をたいせつにして

大松 達知

歌人・宮柊二は一九八六年に没しました。その後、数年して宮柊二記念館が開館し、その記念館が主催する短歌大会が一九九五年に始まりました。今年でも二十四回目を迎えます。いまでは、宮柊二に直接に会った人は多くないかもしれませんが、しかし、それでもたくさんの人たちにとってこの名前の付いた大会が短歌を作るきっかけになっているのはうれしいことです。そういう私も宮柊二に直接に会ったことはありません。しかし、そのたくさんの方の作品を読み味わううちに、どこかで会ったような親しみを感じるようになってきました。同じように、お寄せに合った作品すべてに目を通すうちに、みなさんにも大きな親しみを感じています。短歌の力は不思議なもので

す。宮柊二という名前のもとにひとつの縁で結ばれた大きな家族という感じすらしています。さて、この大会は多くの作品の中から秀歌を選ぶ会です。では、秀歌とは何でしょうか。誤解を恐れずに言えば、他の人とは違った作品です。他の人と同じ感じ方や言葉の使い方ではなく、自分だけの独自のものの見方や詠い方ができればひとつの秀歌だと思えます。しかしそれは新しいとか珍しいとかいう横の広がりだけではなく、いかに飛躍しているか、いかに深くものを見ているかという高さや深さにも関係します。そして大切なのは、「他の人」にはこれまでの自分も含まれるということです。これまでの自分には思いつかなかった新しく深い作品を作ること

ができれば、それがひとりひとりとつとつての秀歌なのだと思います。多くの作品をお寄せいただきながら、この冊子にほんの一部しか取り上げられないのはとても残念ではあります。しかし、掲載された作品を読んでもみると、短歌とはこんなにもわれわれの世界を広げて深めてくれるものなのだと思感するはずで、それは個人個人の力であるとともに短歌という詩形の力であり、ここに集った縁のあるわれわれすべての力ではないかとも思うのです。この縁をたいせつにして今後もごいっしょに楽しく短歌を作ってゆけたらいいと思います。

―「入選作品集」より再掲

大松 達知 (おおまつ たつはる)

1970年、東京都文京区生まれ。芝高校在学中に作歌を始める。1990年「コスモス」入会（現在、選者・編集委員）。ほぼ同時に、季刊同人誌「棧橋」に参加して研鑽を積む。2016年、「コスモス」内の若手季刊同人誌「COCOON（ココーン）」を企画、参加。（現在、発行人・編集委員）。上智大学外国語学部卒。都内私立中学高校男子校の英語教員。千葉ロッテマリーンズをこよなく愛する。2017年度「NHK短歌」選者を担当。歌集に『フリカティブ』『スクールナイト』『アスタリスク』『ゆりかごのうた』（若山牧水賞）『ぶどうのことば』がある。



【選者のことば】

短歌と仲良しになって

池田はるみ

宮柊二記念館の主催する全国短歌大会にお招き頂きました。身の引き締まるような思いがいたします。何より魚沼市でみなさまにお目に掛かれることを光栄に思っています。選歌をしながらの作者も短歌の良さや面白さを存分に知っていらっしやると思いました。多くの良い歌があり楽しい選歌でした。一般の部のおもしろさとジュニアの部のおもしろさには違いがありました。特にジュニアの部は小学生、中学生、高校生と成長の過程が見えるせいなのか違いがあつて楽しみました。成長してゆく過程が眩しく初々しい歌に表現されていきました。応募数の多さが先生方の熱意の証かもしれないと思ったり、宿題の短歌

で苦戦した形跡もあつたりして微笑ましく思ったりしました。きっかけはどのようであれ歌を作ることによって、良き一首を得た人は幸せだと思えました。短歌を身近に感じ楽しんで頂けたことと思います。大松達知さんと私が審査員となつて選んだ中に二人とも点数を入れた一首があります。姿見に映りし顔は考と妣そうだつたのかここにあなたのか 林 建生 「考」と「妣」に驚きました。ルビがありますが妣は亡くなった母という意味です。しかし考は父と言う意味をわたしは知りませんでした。でも老人のことと言う意味を見つけ

ました。表意文字である漢字を上手く使つて、両親から受け継がれた命を歌われたのです。誰にも共通する事でありながら、私は改めて命という大きなものに対して敬虔な気持ちになったのでした。大松さんのこの歌についての講評を聞くことも楽しみです。 たくさんの方の中から、ほんのわずかの良き歌を選ぶのが選者の役割です。選ばれなかった歌もまことに惜しかった歌かもしれない。短歌と仲良くなつてまた沢山作つてみてください。 ー「入選作品集」より再掲

池田はるみ (いけだ はるみ)

1948年、和歌山県海南市生まれ。大阪で育ち東京に嫁ぐ。アララギの大内豊子に出会い、短歌の指導を受ける。1985年作品「白日光」で短歌研究新人賞を受賞。1987年「未来」入会、岡井隆に師事。現在編集委員、選者。NHK学園「友の会」選者。現代歌人協会会員。日本文芸家協会会員。

歌集に『奇譚集』、『妣が国・大阪』（第6回ながらみ現代短歌賞・現代歌人集会賞受賞）『ガーゼ』（第12回河野愛子賞受賞）『婚とふるしき』、『南無 晩ごはん』、『正座』があり、歌集文庫『池田はるみ歌集』がある。エッセイに『お相撲さん』『あほかいな、そうかいな』。共著に『今日から始める短歌入門』がある。



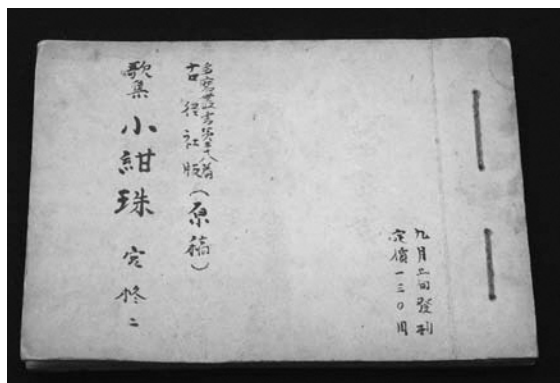
「柗二『小紺珠』のころ」展を振り返って

歌碑などの資料を

初めて展示しました

平成三十年度は、「柗二『小紺珠』のころ」展として、第三歌集『小紺珠』に関する展示物を集めました。黒御影石製歌碑板の展示や戦時中の書簡など当時の品をご覧いただきました。

年度内に開催された宮柗二講座講演会（30・7・22）や短歌セミナー（31・1・20）では『小紺珠』に関する講演をいただきました。戦地から還った柗二の戦後、第一声が詠われた『小紺珠』とその周辺についての理解を深めることができましたのではないのでしょうか。



『小紺珠』原稿

今回の展示では、『小紺珠』原稿やゲラなどの実物を展示しました。

写真（上）は柗二自筆の墨書き表紙です。発行月や定価なども書かれており、『小紺珠』が作られた頃の時代背景などをうかがい知ることができます。また、同時に展示した『小紺珠』ゲラには柗二によって朱書きでの書き込みがたくさんあります。



た。その様子からは、終戦を迎えた後、結婚し子どもを授かり、また短歌を発表する慌しい生活の様子が想像されます。

記念館で展示している宮柗二ゆかりの品からは、柗二が生きた激動の時代の息づかいを感じとることができます。

平成最後の年となる今年の企画展示では、全国短歌大会を中心として平成を振り返る展示を予定しています。

展示資料紹介

「柗二『小紺珠』のころ」展で展示した資料を紹介します。

柗二自筆軸

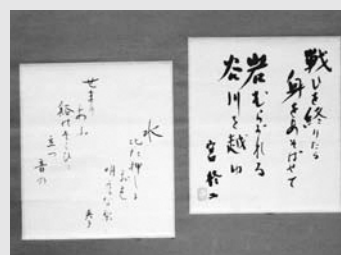
瑠璃色の珠實をつけし
木の枝の小現實を
歌にせむかな
柗二



比翼歌碑（軸）

せまり 水
あふ ひた押しに
谿のそこひに 明かるなり
立つ おし
音の 英子

戦いを終りたる
身をあそばせて
岩むらがれる
谷川を越ゆ
宮柗二



平成30年度 事業報告

今年度は「柗二『小紺珠』のころ」展、第24回となる短歌大会などを中心に、各種の事業を実施しました。

30年度実施事業について

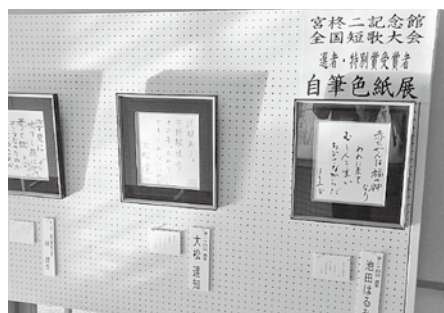
- ◎6月16日
「柗二『小紺珠』のころ」展
オープンセレモニー（テープカット）
記念講演 「宮柗二先生の校歌」
講 師 橋 芳園 氏
 - ◎6月30日～8月19日
第23回全国全国短歌大会ジュニア部門特別賞展
 - ◎7月22日
講演会 「『小紺珠』をめぐって」
講 師 岡崎康行
 - ◎7月7日～7月22日
若井健一八海山写真展
 - ◎9月8日～9月24日
今井進陶芸小品展
 - ◎11月17日
第24回宮柗二記念館全国短歌大会
選者講評 池田はるみ 氏 大松達知 氏
 - ◎11月17日～12月11日
短歌大会選者・特別受賞者直筆色紙展
 - ◎1月20日
短歌セミナー
講演会 「『小紺珠』を読む」
講 師 田宮朋子 氏
- 市内学校で短歌出前教室を行いました。
- ◎7月17日 堀之内中学校
 - ◎7月23日・24日 小出高等学校
 - ◎8月30日・31日 堀之内小学校

短歌セミナー「『小紺珠』を読む」



1月20日、歌人の田宮朋子先生を迎え「『小紺珠』を読む」と題して短歌セミナーを開催しました。「小紺珠」の序文や歌について、解説いただきました。

第24回短歌大会特別賞受賞者展



第24回短歌大会の選者・池田はるみ先生、大松達知先生の作品色紙をはじめ、今大会で特別賞を受賞された皆さまの直筆作品を11月17日から12月11日まで一階ホールで展示させていただきました。また、その内の数点を目黒邸でも展示を行いました。

平成三十一年度

宮柗二記念館 事業計画

企画展示では、第二十五回を迎える全国短歌大会を振り返った展示をする予定です。また、短歌大会をはじめ、多くの方々にご来館を知ってもらえるよう活動を展開します。

◎平成三十一年度 企画展示

- ・テーマ 宮柗二記念館
- ・期間 平成のあゆみ（仮題）
五月二十五日（土）

◎第二十五回全国短歌大会

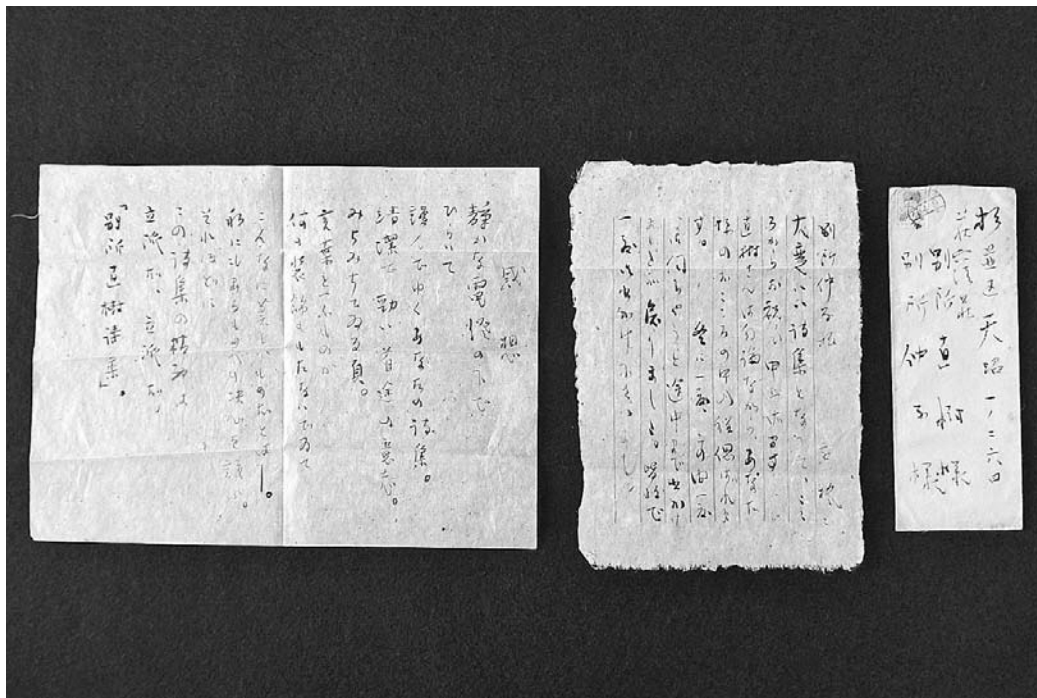
- ・募集開始 五月一日（水）
- ・締め切り
- ・一般の部 七月三十一日（水）
- ・ジュニアの部 九月六日（金）
- ・内容
作品は二首 一、〇〇〇円
海外からの応募、ジュニア部門（高校生以下）は無料。

【短歌大会】（表彰式）

- ・日時 十一月十六日（土）
- ・会場 堀之内公民館
(魚沼市堀之内一三〇)

この他にも、「記念館短歌教室」や「ジュニア短歌教室」など各種事業を行っていく予定です。

（平成30年度新資料）
宮柁二直筆書簡



宮柁二記念館収蔵資料紹介 No.50

今回紹介する資料は、宮柁二の直筆書簡で今年度寄贈いただいた新着資料になります。昭和27年4月、宮柁二が詩人の別所直樹氏と別所仲子氏あてに、当時出版された別所直樹詩集の感想をしたためたものと思われる。

**記念館でFMラジオの
 収録が行われました。**

FM新潟（新潟ローカルラジオ局）の「ヤンの気ままにドライブ」の収録が記念館でありました。既に放送済みではありますが、パーソナリティーのヤンさんから宮柁二記念館を楽しく紹介していただきました。



「友の会」からのお知らせ

宮柁二記念館では、「友の会」会員を募集しています。年会費は1,000円です。
 詳しいことは、宮柁二記念館にお問い合わせください。

宮柁二記念館だより 第50号

発行 2019. 3. 31

問合せ 宮柁二記念館（〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6） TEL・FAX 025-794-3800

メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp ホームページ <http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji>